



# こいこいバス

## 年間7万4千人以上の方が利用！

問い合わせ 大竹市地域公共交通活性化協議会（市民課内 ☎2142）

「こいこいバス」は、平成21年10月に実証運行が始まり、同年4月に本運行に移行しました。多くの皆さんに支えられ、平成23年度は7万4千人以上の方が乗車しました。これは、毎日200人以上の方が利用した計算になります。

### 利用者数

平成26年度の目標として、1便あたりの平均乗客数を6人に設定しています。

平成23年度下期では平均6.1人/便となり、上期に続いて目標を達成しました。

平日が6.6人/便、土・日曜日、祝日が5.0人/便で、土・日曜日、祝日の利用者数が増加しています。

### 平成23年度下期の利用者数

月	利用者数(人)	平均(人/便)
10月	6,569	6.37
11月	6,177	6.18
12月	6,312	6.10
1月	5,658	5.48
2月	5,889	6.07
3月	6,623	6.41
合計	37,228	6.10

### 平成23年度下期運営状況(2台運行)

項目	金額	収支率
運行経費(A)	14,202,300円	-
事業収入(B)	7,028,056円	49.5%
(内訳) 運賃	6,781,096円	-
広告	246,960円	-
事業損益(A)-(B)	7,174,244円	-

運賃収入は約680万円で、これに広告料を加えた事業収入は約700万円です。運行経費に対する収入の割合(収支率)は49.5%となり、目標の50%が目前に迫っています。

運行による不足額(事業損)の約720万円は、税投入により賄うこととなります。

ただし、国からの補助金が交付されるため、実質的な市の負担額は約400万円でした。

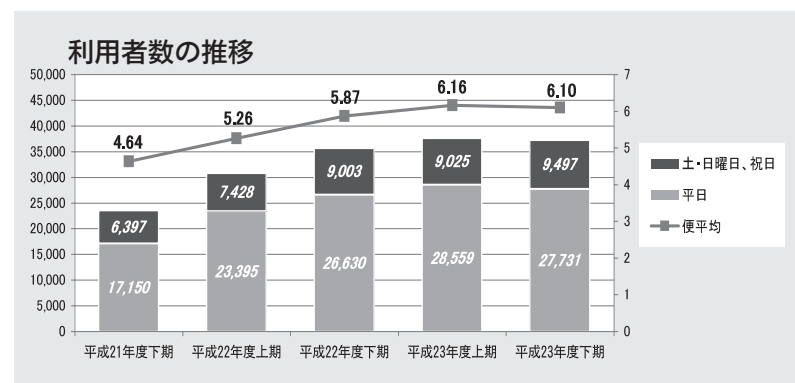
※ 国補助は23年度で終了。

**半期ごとの比較**

運行開始からの推移を半期ごとと比較すると、次のようになります。

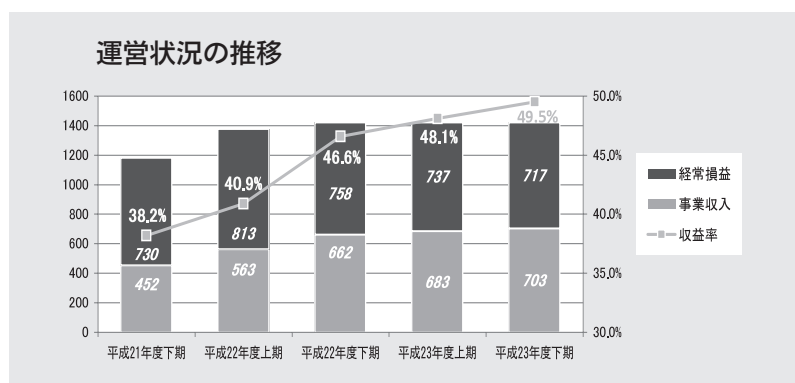
**利用者数の推移**

下期は上期とほぼ同じ水準です。運行当初と比べ、平均で約1.3倍に増加しています。



**運営状況の推移**

下期は広告収入があるために、事業収入がやや多くなっています。利用者数の増加に伴って、収支率は順調に改善されています。



これまででは、利用者数も収益率も順調に増加しています。

車両も新しくなり、引き続きサービス向上に努めながら、目標の達成に向けて取り組んでいきたいと考えています。



# さあ今日も水と元気が蛇口から 水道週間

6月1日(金)～7日(木)は 水道週間

問い合わせ 上下水道局 ☎2193

水道週間は水道についての理解と関心を高めるため毎年実施されています。水は生命の源であり、私たちの生活を豊かにする大切な資源です。

上下水道局では、皆さんに安心しておいしく飲んでいただける水づくりに努めています。

### 営業の開始や廃止に伴う水道の使用用途変更の届け出はお早めに

店舗などの営業の開始や廃止に伴って、使用する用途が変わる場合は、すみやかに届け出てください。

また、転居に伴い使用を中止・廃止開始する場合も、早めに業務課(☎2191)までお知らせください。

### 「給水装置」の修繕は、指定の工事店で

水道の配水管から分岐して設置されている給水管や、これに直結する蛇口や止水栓などの給水設備を総称して「給水装置」と呼んでいます。このような「給水装置」は、メーター本体を除き、所有者(設置者)の財産で、必要な補修や管理は、基本的に所有者、または使用者の負担で行う必要があります。転居などに伴い使用を一時中止している場合も同様です。「給水装置」に異常があった場合(漏水など)は、

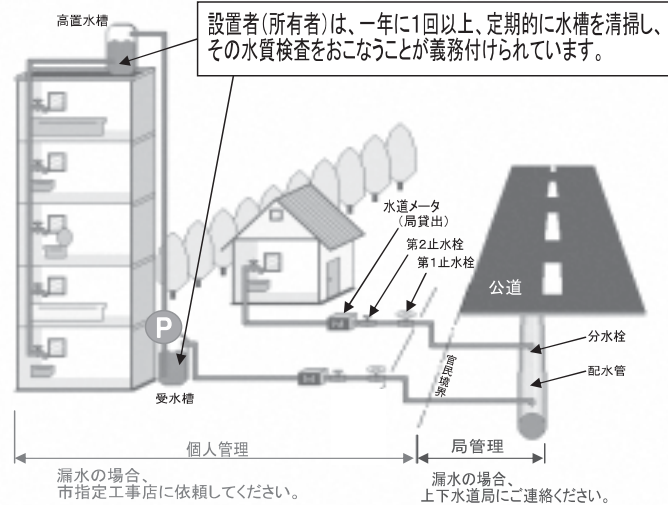
上下水道局指定の工事店に修理の依頼をしてください。指定工事店は、ホームページや暮らしの便利帳に掲載しています。

また、公道内(官民境界まで)で漏水があった場合は、上下水道局の負担で修理を行っているため、連絡してください。

ただし、おおむね25年以上経過した老朽給水管は、所有者負担による布設替えが必要となります。不明な点がある時は、工務課(☎2192)まで連絡してください。

**漏水を見つけるには**

水道メーター以降の給水装置の漏水の発見方法は、蛇口を全部閉め、水道メーターのパイロットマーク(羽根車)が回転しているか確認します。少しでも回転していれば漏水している可能性があるため、早急に上下水道局指定の工事店に相談してください。



水道メーターのパイロットマーク(羽根車) 通水時は回転します。

**給水装置の洗浄**

水道管の洗浄業者に関する問い合わせが増加しています。給水装置の洗浄は所有者(設置者)の判断で行ってください。上下水道局が洗浄を依頼することはありません。

市の水道料金は、県内14市で2番目に、県内23市町では3番目に安い料金で、全国的にも安価となっています。

水道事業は、利用者の方の水道料金で賄われていますが、給水人口の減少や節水機器の普及などに伴って、料金収入は年々減少している状況です。

市では、平成23年に市民生活の重要なライフラインである水道事業の将来像や目標を設定し、それを実現するための施策を示した「大竹市水道ビジョン」を策定しています。

このビジョンに基づいて、経費の削減や料金設定の検討を行い、経営の健全化を図りながら、計画的な老朽化施設の改築更新や耐震化を進め、ビジョンの基本理念である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けて取り組んでいきます。

「大竹市水道ビジョン」は、ホームページに掲載しています。